

令和6年12月3日

智頭町議会議長 谷口 雅人 様

総務常任委員長 谷口 翔馬

委員会調査報告書

本委員会の調査事件について調査を実施したので、智頭町議会会議規則第77条の規定により、下記のとおり報告します。

記

1. 期 日

令和6年11月19日（火）

2. 場 所

鳥取県八頭郡智頭町大字智頭2081番地4「智頭町産業会館 会議室」

3. 内 容

智頭町商工会との意見交換会

- (1) 町内商工業の現状等について
- (2) 智頭町商工会の今後の展開、要望等について
- (3) その他

4. 目的

町内商工業の現状、智頭町商工会の今後の展開・要望等について意見交換を行い、町内商工業発展のため今後の委員会活動に資する。

5. 派遣委員

北川 貴将 議員、田中 賢 議員、谷口 翔馬 議員、大河原 昭洋議員
谷口 雅人 議員

5. 所感等

商工会事務局の方より、町内事業所の現状や智頭町版地域電子カード事業の調査報告について説明があり、その後、現状と今後の展開、要望等について意見交換が行われた。

令和6年度の商工業者数326業者に対し会員数219業者となっており、組織率は現在67.2%である。令和4年度と比べ3.3%減少しており、脱会の主な要

因として高齢化等による廃業が挙げられる。地域振興策として「智頭まちゼミ事業」を開催してきたが、年々受講者数は増えPR効果により売り上げ向上に貢献しているということだった。「智頭町版電子カード」については、商工会独自で町内全世帯や全商工業者に対しアンケート調査を実施している。回答数395の内、電子マネーの希望者は232で61.2%の方が望まれているが、反面38.8%は希望しないということであった。智頭町商工会として、急ぎ検討している内容としてキャッシュレス事業があり、商工会独自で電子カード検討委員会を立ち上げ8月29日に奈義町視察、10月24日には広島県庄原市へ智頭町議会総務常任委員会の行政視察に同行するなど、積極的に調査と研究が行なわれている。奈義町が導入している「ナギフトカード」の視察報告によると、商店の廃業に歯止めがかかっているなど町民と商店と行政が連携して「まちづくり」に取り組む姿勢がうかがわれた。総務常任委員会がこれまで行政視察で訪れた南部町と広島県庄原市では、加盟店の負担額、月50万円の利用のある店舗例として端末利用料など約9千円が必要であることから、店舗の負担としてのしかかってくるのが懸念されたが、本町のサービス商店会が現在導入している「すぎっこカード」は店舗の売り上げ額にもよるが、年間約10万円の負担を支払っているということだった。

商工振興という視点だけでは多額の予算の投入には難しさを感じていたが、奈義町のように「まちづくり」が目的というように、智頭町の活性化を旨とするための「智頭町版電子カード」の導入については、大いに可能性を感じる。しかし、町民の利便性を高め、今後長期に渡り利用していただける電子カードにするためには本町が導入している共助交通など、1枚のカードで多くの決済が出来るシステム構築は必要であると思う。また、町内各事業所の「智頭町版電子カード」の導入が前向きであるのか調査も必要であると感じる中で、視点を変えた慎重な議論が求められる。